



サポセン

だより

創刊号
2020.2

「サポセン」は、埼玉県障害者雇用総合サポートセンターの愛称です。

特集

働く障害者と事業主のインタビュー

埼玉県では、障害者雇用に積極的な事業所の優れた取組を県民レポーターが取材し、障害のある人の働く様子や生の声、そして事業主の職場環境づくりの工夫や障害者雇用への熱い思いを県ホームページで発信しています。

今回は、令和元年度第1回目のインタビューを「サポセンだより」創刊号で御紹介します。

多様な仕事で
個々の能力を発揮する

株式会社カインズ・ビジネスサービス

取材日：令和元年11月7日

■企業概要

名称 株式会社カインズ・ビジネスサービス
(株式会社カインズの特例子会社)

※特例子会社制度

障害者の雇用の促進及び安定を図るため、事業主が障害者の雇用に特別の配慮をした子会社を設立し、一定の要件を満たす場合には、特例としてその子会社に雇用されている労働者を親会社に雇用されるとみなして、実雇用率を算定できる制度。

所在地 本庄市早稲田の杜一丁目2番1号

事業内容 商品情報、顧客情報のデータ入力、ユニフォームの受発注・管理、備品管理、社内メール便、郵便物仕分け、作業着のネーム刺繍、財務帳票仕分け管理、洋服お直しサービス等の多岐にわたり、更に、新規事業としてユニバーサルファッションにも挑むとのこと。

社員数 45名

障害のある社員数 15名(身体(肢体・聴覚・視覚)、知的、精神)

※令和元年11月7日現在



株式会社カインズ本社

株式会社カインズ・ビジネスサービスはこの建物の中にあります。

■企業の方へのインタビュー

(県民レポーター：両角さん)

もろずみ

営業部 部長 國頭圭吾くにとう けいごさんにお話を伺いました。



仕事の領域と種類を拡大し続けることが一番の配慮

－障害のある人の採用基準はありますか？

身体(肢体・聴覚・視覚)、知的、精神をバランス良く、一つの障害に偏らないよう障がい者を採用しています。

－補助犬(盲導犬、聴導犬、介助犬)のいる障害のある人が応募したら？

簡単ではないかもしれませんが、可能性はあると思います。

－障害のある人への配慮はありますか？



一人一人の障害の特徴と性格を考慮して配置を考えています。また、9名の支援員(職業生活相談員)を配置しサポート体制を作っており、コミュニケーションを大切にしながら業務を進めています。

ですが、仕事における一番の配慮は、仕事の領域と種類を拡大し続けていくことですね。

多様な仕事が個々の能力を発揮できる可能性を広げていくことにつながると考えています。

－障害のある人たちの環境を整えた上で能力発揮が十分にできるということですね。

カインズ本体からの依頼は断らず、何でもするという気持ちもわいてきますね。配慮がやる気になり、ステップアップになり、そして企業として利益につながるのですね。



レポーター(手前)のインタビューを受ける
國頭部長

将来の課題は「対AI(人口知能)」？

－障害のある人の可能性や魅力を感じますか？

ある部分に障害があるために、別の機能が発達して健常者を超えているケースもあるので、個人の長所を活かした働き方を考えていけば、障がい者の可能性はとて大きいと思います。

迎え入れる側にとってもいろいろな創意工夫や対応能力が身に付きました。働く意義を改めて気付かせてもらえるのも魅力の一つです。

－そう言える國頭さんこそ、素晴らしいです。可能性は無限であると思いつくことも必要ですね。

－障害者雇用の課題は何ですか？

将来に向けてAI(人口知能)に取って代わらない仕事を見つけていくことが課題であり、今後ますます重要になっていくと思います。

－0から1を生み出す、それが人工知能にはできなくて人間にできる仕事ですね。

人と人とのつながりと創造。このキーワードを持つ仕事や職は、AIに置き換わりようがないですね。

ほかの課題も企業の方向性でも違って来そうですが、角度や視点を変えれば良いのですよね。

法定雇用率は大切だけどこだわらない

－そして私が一番聞きたかったこと。

法定雇用率についてどう考えますか？

法定雇用率は大切ですが、数字にこだわらず、カインズやカインズ・ビジネスサービス(以下、「CBS」と表記)で働きたいという人たちの希望を叶えられる

企業になりたいと考えていますし、従業員一人一人が満足感や幸福感を得られるような会社でありたいですね。

－現在、カインズ全体の障害のある人の雇用率は2.7%で、法定雇用率2.2%を超え、非常に高いレベルだと思います。(CBSだけでなく、カインズ本体でも多数の障害のある人を雇用)

障害のある人たちが雇用率に守られていると思うのではなく、仕事を見つけ出し、造り出すことができる能力をアピールし、企業、CBS側が障害のある人達が1+1=2でなく、それ以上であると指導、評価し、両側(企業と労働側)の車輪が進むことによって、雇用率を意識せず、より発展することにつながるのですね。

県民レポーターの感想

今回、カインズさんに訪問できると聞いて楽しみにしていました。

それは、私がカインズの店舗をよく利用させていただいて、その商品デザインを良いと思っていたり、店舗内バリアフリーに関心があり、働く人の意識にも興味があったので、車椅子に乗っている私が一般企業で20数年働いてきたことと、どう違い、どう同じなのか。社会、企業、働く人達、どう変わるべきなのかを知りたかったのです。

これからは、当事者や企業が、障害のレベルを見るのではなく、人としての能力を見る重要性が増していくと思います。

現在、年間100人以上の人々が会社見学に来るというCBS。働く環境を整えていて離職率も低いということで、目標にされているのですね。

カインズ社員の行動指針に「絶えず挑戦する」とあり、その精神が、CBSで働く人たちのハートにも、じっくりと浸透しているのだと思います。

「変化・失敗を恐れず前へ」という企業精神と共に、この二つの土壌があれば、これからも成長する企業であり、そこに働く人たちの充実と満足は、更に上昇していくことでしょう。

「障害の 強み逆手に 風吹かす」

レポーター 後日談

「先日、カインズの自転車売り場で車椅子のタイヤに空気を入れてもらいました。

自転車の購入ではなく、ただの車椅子への空気入れ。嫌な顔をされる覚悟で行きましたが、とんでもなく、気持ち良く対応していただきました。

その人自身が素晴らしいということは勿論、カインズの社風がここでも、と感じ、とにかく気持ちの良い日でした」



■ 障害のある方へのインタビュー なかつか
(県民レポーター：中塚さん)

CBSで働いている3人の方にお話を伺いました。

Fさん(身体)、Nさん(精神)へのインタビュー



レポーター(奥左側)のインタビューを受けるFさん(手前右側)とNさん(手前左側)

実習、トライアル雇用を経て本採用へ

Fさんの仕事は、PCの入力作業です。午前9時から午後1時までの4時間、週5日間働いています。

Nさんは全国の店舗から発注された備品を梱包する仕事をしています。午前9時から午後3時まで5時間、週5日働いています。働く時間は人によってそれぞれだそうです。

FさんはCBSの立ち上げの時から働いており、5年目になります。Nさんは1年半です。

お二人とも、ハローワークから地元の就労移行支援事業所を紹介されて、そこからCBSに実習に行き、トライアル雇用を経て本採用になりました。周りの人が親切で働きやすい職場だということでした。

働く一番の目的はもちろん収入を得るためですが、ほかに何かがあるか聞いてみました。

外との関わりが得られる。規則正しい生活ができる。仕事をしていることによって、いろいろな不安が解消されていくということでした。

これから働く人へのメッセージ

(Fさん)

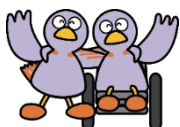
石の上にも3年と、自分が長く働き続けることは今後社会に出る後輩のためでもあるというのを卒業した学校の先生に言われた。

働いていると、大変なこと、つらいこともあると思うけど、後輩のためにと、働き続けてほしい。

(Nさん)

就職するということはハードルが高いかもしれないけれど、とりあえず、飛び込んでみる。そして仕事が合わなかったら、その時にどうするか考えてみればよい。

ということでした。



Uさん(知的)へのインタビュー

仕事をしていく上で心掛けていること

Uさんは20代の青年です。

午前9時から午後4時まで働いています。メール便の仕分けの仕事を月曜日、水曜日、金曜日と3日間。火曜日と木曜日はPCの入力作業をしています。水曜日は出荷作業のある日なので、荷物が多いと残業もします。

さいたま市にある埼玉県立職業能力開発センターを経て、CBSに入社しました。先ほどのFさんと同様、会社の立ち上げの時から働いているので、5年半が過ぎました。

休日は家でのだんびりと過ごしたり、高校の時の友人と好きなディズニーの映画を見に行ったりします。

お給料は、自分の趣味に使うほかに、家へ生活費を渡して、貯金もします。

仕事をしていく上で心掛けていることを話してくれました。

1. まずは正確に行う
2. スピーディに行う
3. ケガをしない
4. 規則正しい生活をする
5. コミュニケーションを大切にする

今後の目標は、今は6時間勤務だけれど、仕事ぶりを認めてもらって8時間勤務にしてもらうことだそうです。

就職を希望する人へのアドバイスも話してくれました。

1. 大きな声で挨拶をする
2. 連絡、報告をきちんとして、分からないことは職場の人に相談する
3. 就労をあきらめない

ということだそうです。

働く意欲がひしひしと

伝わってくる青年でした。



レポーターのインタビューを受けるUさん(手前)

県民レポーターの感想

Uさんは若い青年でしたが、Fさん、Nさんは私に年齢が近い女性だったので、親しみやすく、インタビューというより、楽しくお話をさせていただいたという感じです。それでもお二人とも働くこと、働ける職場があることの意欲と感謝が伝わってきました。

インタビューの前に職場の見学もさせていただきました。本庄早稲田駅の近くにカインズホーム本社の建物があるのは知っていましたが、建物の中に入ると、明るくて大きいのにまず驚きました。次に皆さんがやっている仕事の種類の多さに驚きました。どんな小さな仕事でも、きた仕事は受けるという國頭部長の言葉に、持っている障害とマッチングできる仕事を見つける難しさと、それでも見つけようという意欲を感じました。

見学のために、職場に入ってきた私たちを皆さんが「こんにちは」と明るく笑顔で迎えてくださるのもとても良かったです。明るく笑顔で迎える大切さを体験として学ばせていただきました。ありがとうございました。

埼玉県障害者雇用総合サポートセンター

埼玉県障害者雇用総合サポートセンターは、埼玉県が運営する企業の障害者雇用を支援する専門機関です。愛称は「サポセン」です。



企業の障害者雇用を全力でサポートします！

雇用開拓

障害者雇用開拓員が企業を訪問し、障害者雇用制度の仕組みや各種支援について情報提供します。

☎ 048-822-3111 (雇用開拓業務部門)



企業支援

障害者雇用に向けて、専門のアドバイザーが具体的な助言・提案をします。

短期（3日～5日）の雇用体験（職場体験実習の受入れ）ができます。

☎ 048-827-0540 (企業支援業務部門)



障害者雇用に関するちょっとしたお困りごとは「障害者雇用ヘルプデスク」にお電話ください。

障害者雇用ヘルプデスク
ココウフ ツナイデ
☎ 0120-540-271

定着支援

障害のある人が職場に適応できるようジョブコーチを派遣しサポートします。

支援機関のスキルアップもお手伝いします。

☎ 048-823-9020 (定着支援業務部門)



○所在地：〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和5-6-5 浦和合同庁舎別館1階

○利用時間：月～金 午前8時30分～午後5時（祝日及び12/29～1/3を除く）

サポセンNEWS

埼玉労働局により公表された令和元年6月1日現在の県内民間企業の障害者雇用状況は、雇用障害者数、実雇用率ともに過去最高を更新。

障害者実雇用率は2.22%となり法定雇用率（2.2%）を上回りました。（全国平均2.11%）

法定雇用率達成企業の割合は、48.8%でした。

○県内民間企業の雇用障害者数・実雇用率の推移（各年6月1日現在）

項目	年	H27	H28	H29	H30	R1
雇用障害者数 (人)		11,531.0	11,984.0	12,912.5	14,504.5	15,478.0
実雇用率 (%)		1.86	1.93	2.01	2.15	2.22
法定雇用率 (%)		2.0		2.2		



サポセンのホームページはこちらからどうぞ！



今回の特集インタビューのページはこちらです！

【発行】埼玉県産業労働部雇用労働課
障害者雇用総合サポートセンター
〒330-0074
さいたま市浦和区北浦和5-6-5
浦和合同庁舎別館1階
電話 048-814-2006